

オリエンテーリングシート

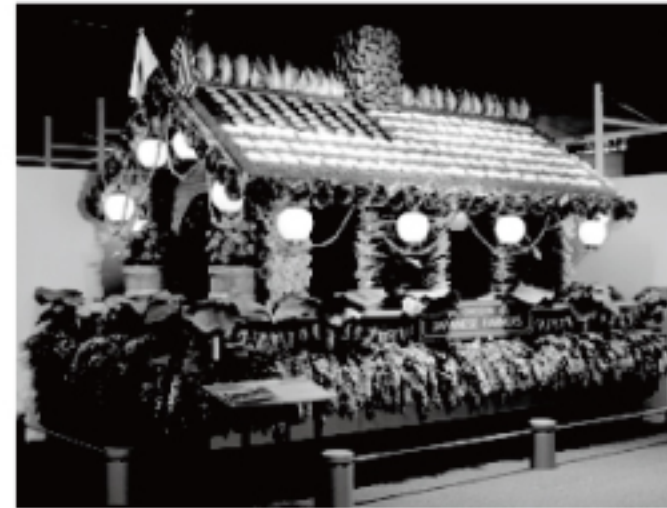
海外移住資料館は、日本人の海外移住の歴史、世界に暮らす日系人（移住した日本人とその子孫たち）の生活について展示している資料館です。ここ横浜からも多くの日本人が世界へと旅立って行きました。

次のポイントを回りながら、質問に答えよう！写真を手掛かりにポイントを探してね。
 に数字や言葉を書き込もう。わからないことがあったら、何でもボランティアさん（緑の服を着ているよ）に聞いてね！

ポイント1

移住者は努力しました

1920年にアメリカのオレゴン州で、ローズ・フェスティバルというお祭りがありました。そのお祭りに、 をしていた日本人が、自分たちで栽培した野菜、果物などを使って作ったこの野菜山車（フロート）で参加して賞をとりました。



ポイント2

どのくらいの日本人が海外へ渡ったの？



およそ1世紀のあいだに約万人の日本人が海外へ移り住みました。

ポイント3

海外渡航の始まり

幕末から明治元年にかけて発行されたを、当時は御免の印章と呼びました。

1868（明治元）年、アメリカ人ヴァン・リードが神奈川（横浜）で集めた日本人約150名を維新政府の許可なしにへ出発させました。



ポイント4

アリアンサ移住地



ブラジル、サンパウロ州西部のアリアンサ移住地は、定住（ずっとくらししていくこと）を意識した日本人が移り住み開拓をすすめた場所です。そこでは「コーヒーよりもを作れ」という高い理想がかかげられ、木を切り、山を焼き、農業を営んで、定住に向けての努力が必死で続けられました。

ポイント5

強制収容の経験

第二次世界大戦の頃は、日系人にとって大変つらい時期でした。アメリカでは、アメリカ国籍を持つ二世も「敵性外国人」として扱われました。西海岸に暮らしていた大勢の日系人がに連れていかれました。



ポイント6

敗戦国日本への支援



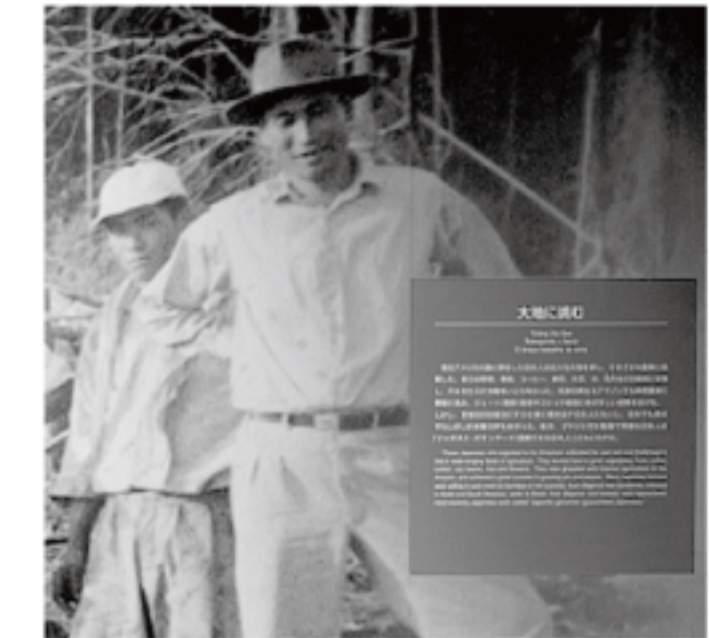
戦後、アメリカ大陸に暮らす移住者は、敗戦国となった日本へ着るものや食べるものなど、たくさんの支援をしてくれました。それらの支援物資は、支援をとりまとめた、アジア救援公認団体という組織の（Licensed Agencies for Relief in Asia）の頭文字 L. A. R. A. をとり、物資と呼ばれました。

ヒント：すぐ下の新聞記事を見てね。

ポイント7

日本人移住者・日系人への信頼

ブラジルには、という意味の「ジャポネス・ガランチード」という言葉があります。長い時間をかけて、信頼されてきた日本人移住者。この信頼を、私たちも大事にしたいですね。



ポイント8

違う文化を持つ人々と暮らす



この写真は、山口県からハワイへ移住したご夫婦の子孫の方々を写したものです。3世から世の大家族。肌の色も、髪の色も違います。見た目や考え方が違っててもこんな風に仲良くできるといいですね！

答え：1：農業 2：76 3：パスポート、ハワイ 4：人 5：強制収容所 6：ララ/ララ 7：信頼できる日本人 8：6